

## 村上明美 (大学院保健福祉学研究科兼務)

### 1. 著書

- 1) 共著, 村上明美, 細尾萌子, 小田初美, 福島和美, 倉本孝子, 2024年06月, 日本語, 看護・助産師教育に活かすパフォーマンス評価ワークブック 導入のためのはじめの一步, 第2部: 事例編 2. 助産師教育におけるパフォーマンス評価の実践事例, 創元社, 43-51
- 2) 共著, 村上明美・福井トシ子・井本寛子, 2025年01月, 日本語, 新版 助産師業務要覧第4版 2025年版, 第2章: 助産師の教育 4. 助産師の能力, 日本看護協会出版会, 52-62

### 2. 学術論文

- 1) 原著論文, 共著者, 音村有美, 村上明美, 浅見恵梨子, 島谷康司, 島圭介, 藤井宏子, 2024年1月, 日本語, 助産師の児頭後頭結節滑脱の判断, 査読あり, 日本助産学会誌, <https://doi.org/10.3418/jjam.JJAM-2024-0027>, 早期公開 (11月12日)
- 2) その他 (報告等), 責任著者, 谷口千絵, 渡邊浩子, 渡邊典子, 和泉美枝, 宮川幸代, 眞鍋えみ子, 江藤宏美, 高田昌代, 北村聖, 村上明美, 2024年04月, 日本語, 助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験に対する教員の認識, 査読あり, 日本助産学会誌, 2024 Vol. 38, 145-154, <https://doi.org/10.3418/jjam.JJAM-2023-0042>
- 3) 原著論文, 責任著者, Hiroko. FUJII, Noriko WATANABE, Eriko ASAMI, Akemi MURAKAMI, 2024年12月, 英語, Descriptive study on sustainable labor and delivery education: Learning from practices amid COVID-19 pandemic and major disasters., 査読あり, Journal of Japan Academy of Midwifery, 2024 Vol. 38, 318-329, <https://doi.org/10.3418/jjam.JJAM-2024-0003>

### 3. その他の著作

- 1) 村上明美, 渡邊千登世, 宮芝智子, 2024年07月, 「看護師の新たな働き方モデル」開発の実際と教育プログラムの概要, 看護管理, 34巻7号 Page550-554

### 4. 学会発表等

- 1) 口頭, 共同研究者, 宮芝智子, 村上明美, 渡邊千登世, 横山郁子, 和田由樹, 「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」の開発その1—導入1年目のプロセス評価—, 第44回日本看護科学学会学術集会, 2024年12月

### 5. 学会, 協会, 公的団体の委員など

- 1) 公益社団法人日本母性衛生学会, 査読委員, 2007. 7～
- 2) 神奈川母性衛生学会, 理事, 2009. 4～

- 3) 産科医療補償制度分析委員会, 部会員, 2009. 4～
- 4) 一般社団法人日本看護科学学会, 評議員, 2019. 4～
- 5) 一般社団法人日本助産学会, 理事, 2024. 4～
- 6) 助産実践能力推進協議会, 委員, 219. 6～
- 7) 公益財団法人かながわ国際交流財団, 理事, 2023. 5～
- 8) 公益社団法人日本母性衛生学会, 理事, 2023. 6～
- 9) 公益社団法人全国助産師教育協議会, 助産師教育研修研究センター長, 2023. 6～
- 10) 一般財団法人日本看護学教育評価機構, 評価員, 2024. 4～2025. 3
- 11) 一般社団法人日本助産学会, 理事, 2024. 6～
- 12) 独立行政法人日本学生支援機構, 運営評議会委員, 2024. 10～
- 13) 茨城県立医療大学, 大学運営協議会委員, 2025. 2～

## 6. 社会貢献

- 1) オープンキャンパス 学長教育講演, 2024. 8. 3～4
- 2) 公益社団法人全国助産師教育協議会セカンドステージ研修助産師教育課程Ⅱ コメンテーター, 2025. 2. 16～27
- 3) 公益社団法人全国助産師教育協議会助産政策論オンラインセミナー 話題提供者, 2025. 3. 9

## 7. 講演, 放送

- 1) 神奈川県立保健福祉大学ヒューマンサービス公開講座 ヒューマンサービスの理解と本学の人材養成, 2024. 5. 25
- 2) 公益社団法人全国助産師教育協議会総会 教育講演 助産学共用試験のこれまでの取り組みの経緯と今後の方向性, 2024. 6. 16
- 3) 公益社団法人日本母性衛生学会 第65回学術集会 教育講演 助産学共用試験の推進一助産学OSCEを中心に, 2024. 10. 18

## 8. 学会等での活動

- 1) 一般社団法人日本看護学教育学会第34回学術集会共催セミナー4 座長, 2024. 8. 19

## 9. 学内教育活動

- 1) 保健福祉学部  
ヒューマンサービス論Ⅰの視覚教材作成, 2024. 4
- 2) 実践教育センター  
ヒューマンサービス論の視覚教材作成, 2024. 4
- 3) ヘルスイノベーション研究科修士課程

ME-BYO and Human Services の視覚教材作成, 2024. 10

4) 保健福祉学研究科博士前期課程

助産学特論 I の視覚教材作成, 2024. 10～12

10. 学内各種委員会活動

- 1) 役員会, 2023. 4. ～
- 2) 経営審議会, 2023. 4. ～
- 3) 教育研究審議会, 2018. 4～
- 4) 全学入試委員会, 2018. 4～
- 5) 自己評価専門部会, 2018. 4～
- 6) 内部質保証推進部会, 2018. 4～
- 7) 自己評価・内部質保証審査会, 2021. 4～

11. 科学研究費補助金, その他の補助金などの受託

- 1) 基盤研究 (B), 代表者, 村上明美, 渡邊浩子, 渡邊典子, 谷口千絵, 眞鍋えみ子, 和泉美枝, 宮川幸代, 江藤宏美, 高田昌代, 助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験の実用化と認証システム開発, 6, 760千円, 2024年04月, 2028年03月
- 2) 基盤研究 (C), 分担者, 藤井宏子, 村上明美, 浅見恵梨子, 島圭介, 島谷康司, 助産師の会陰保護技術の知に関する研究: VRシステムによる暗黙知から形式知への変換, 4, 160千円, 2022年04月, 2025年03月
- 3) 基盤研究 (C), 分担者, 渡邊千登世, 宮芝智子, 村上明美, 「病院と地域を横断して働く新人看護師の教育プログラム」の導入と評価, 3, 370千円, 2024年04月, 2027年03月